

若者の政治に対する関心を高めるために 品川女子学院CBL「政治に意見をもてる大人になる」

(品川女子学院高等部2年)

都内の私立女子校である品川女子学院中等部・高等部では、卒業10年後の28歳を視野に入れ、女子のライフデザイン教育「28project」に取り組んでいます。

積極的な女子生徒が集まっている本校は、生徒全員がiPadを所持し授業や行事で活用。中3ではニュージーランドでホームステイをします。

また文化祭では起業体験プログラムを実施したり、社会人による講座を数多く開いたりするなど、さまざまな新しい教育に取り組んでいます。

【CBL】

品川女子学院では、高校2年の家庭基礎の授業で、CBL (Challenge Based Learning) という学習を行っています。CBLとは、身近な課題を見つけ、それを調査・分析して解決策を考え行動する、課題解決型の学習です。特に、調査・解決では自ら行動することを重視しており、活動の中で生徒達が様々な“Challenge”をすることから、この名が付いています。

私達の班が行ったCBLのテーマは「政治と選挙」で、そのきっかけは班員のアメリカ在住時の経験です。フロリダ州の高校で銃撃事件が起きた際、銃規制の強化を求めて全国の学生がSNS等で繋がり、デモ活動を行いました。彼女は、同じ世代の若者が政治に意見を持ち、行動する姿に多くの刺激を受けました。日本では選挙権が18歳に引き下げられ、若者が政治参加する機会が増えました。しかし、私達は、アメリカの学生のように、自分の意見を持ち行動できるか不安に感じました。日本の10・20代の投票率は他の世代に比べて低く、若者は政治を遠く、難しいものと感じています。そこで、私達のCBLでは、政治に意見を持たない10代の学生をターゲットに、政治を若者にとって身近なものにする活動を行うこととしました。

まず、政治を知る大切さや学生に出来ることを学ぶため、総務省認定の主権者教育アドバイザー林大介様と若者政策推進議員連盟の室橋祐貴様に話を伺ったところ、このままだと若者にとって不利な社会となり、若者が参加しない高齢者に偏った政治になることを指摘されました。この現象はシルバーデモクラシーと呼ばれ、社会保障料の8割が年金や医療に当てられているのもその例です。この現状を打破するには、学生に対して、主権者としての必要な知識や行動力を備える教育が必要と痛感しました。そこで私達は、二つの取組を実践するとともに、どの方法が政治に関心を持つのに役に立ったのかを把握するため、随時アンケートもとりました。



お話を伺いました

【1日1ニュース】

一つ目は、「1日1ニュース」キャンペーンです。朝のホームルームの際、私達が選んだ新聞記事をクラスで説明し、ディスカッションも取り入れました。その際、意見をアウトプットすることが行動に繋がると考え、意見の記入や発表も行い、昼休みにテレビで記事に関連するニュースを流しました。アンケートでは、90%の生徒が「この活動により政治に興味を持てた」と答えてくれましたが、昼のニュースは聴き流す人が多く、効果的ではありませんでした。



「1日1ニュース」を説明しているところです

【模擬選挙】

二つ目は、「模擬選挙」の実施です。ここでは、学生に政治や選挙の大切さを理解して貰うために出張授業等を行っている中央大学の学生団体「Vote at Chuo」にご協力頂きました。「女性の社会進出を助ける政策」をテーマとした模擬選挙では、3人の候補者による選挙演説とディスカッションを行い、区役所から借りた実際の投票箱と記載台を使い、本番さながらの雰囲気投票を行うことが出来ました。事後アンケートでは、94%の参加者から選挙を身近に感じられたとの回答を得られ、政治への理解を深めるために模擬選挙の継続が重要と感じました。



実際の記載台と投票箱を使って模擬選挙を行いました

【2つの提案】

そして、このCBL活動を通して、以下の提案をしました。一つ目は、社会科・公民科の授業に於ける、模擬選挙を継続して取り入れるカリキュラムの導入です。中学段階でのテーマは、学校周辺の地域課題等取り組み易いものとし、徐々に難易度をあげて、選挙権を持つ18歳で完結させます。下の図は、私達が実際に学習指導要領を参考にしたカリキュラムです。

学年	授業で習う内容	模擬選挙のテーマ例
中1	地域を知る 世界の中の日本	例) 北品川駅周辺にタバコの喫煙が多い！ 「品川区歩行喫煙および吸い殻空き缶等の投げ捨てるの防止に関する条例」は効果的？それとももっといい方法がある？
中2	日本を知る-歴史 日清戦争前まで	例) 現代まで続く文化や伝統工芸品が多い！ 今の日本では昔の伝統文化をもっと守ったほうがいい？ また、どのようにすれば守れる？
中3	近代の歴史 公民 憲法を知る	例) 選挙権が国民に渡るまでの道のり オーストラリアでは選挙に行くことが義務付けられていて、いかないと罰金が課せられる。 日本も義務化するべき？
高1	公民 各国の選挙制度	例) アメリカでは大統領制だったり各国で違いがある 日本は政党数がとても多いが、二大政党制とかの方がいいの？
高2	選択科目 日本史、世界史、 地理	例) 現代社会では、国民は平等に消費税を払わなくてはならない。 収入の少ない家庭からも取るべきなの？ 消費税増税について考える。

二つ目は、「私達の声を議員に届けよう！」という趣旨で、学生と議員の方々との交流の場を設けることです。私達は、議員の方々には自分達の意見が反映されないと思っていましたが、実際には議員の方々も若者の意見を求めているが、聞く機会が無いことを知りました。本校では生徒・保護者・一般の方々を対象に、生徒が特別講座を企画することが出来ます。そこで私達は、今年中に若者（生徒）と若者政策推進議員連盟の方々による、「若者の政治参加」をテーマに意見交換を行う講座を開催する予定です。

また、本校が文部科学省指定のSGH (Super Global High School) 校であることから、昨年12月のSGH全国高校フォーラムの場で、私達の活動を発表する機会を頂きました。その際、「国際的な政治的協力関係を築く為には何が必要か」というテーマで、他校の生徒や留学生と意見交換をしました。英語での発表や意見交換は大変でしたが、同じ年代の学生が社会・環境問題の解決に向けて行動している事を知り、私達の活動を見つめなおす良い機会となりました。



4人が英語で発表しています

【結び】

過密スケジュールの中での模擬選挙やマニュアルの作成、意見が出すぎて喧嘩になった事、英語のプレゼンが上手に出来なかった事等の反省点は残りました。しかし、私達が「解決したい」「皆に知って貰いたい」と思った若者の政治参加についてのCBL活動は、班員と協力し合っ解決に向けて努力し続けられ、とても素晴らしい経験になりました。今後もこの活動を通して、多くの学生に選挙や政治への興味を持って貰えるように頑張っていきたいです。



SGHの会場で